

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172400257
法人名	(株)やま
事業所名	グループホームほたる
訪問調査日	平成21年1月13日
評価確定日	平成21年3月5日
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2172400257		
法人名	(株)やま		
事業所名	グループホームほたる		
所在地 (電話番号)	〒 503-1511 不破郡関ヶ原町大字関ヶ原3384-3 (電 話) 0584-43-5780		
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成21年1月13日	評価確定日	平成21年3月5日

【情報提供票より】(20年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6.7 人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階部分	～ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000～99,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	450 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり		1,500 円

(4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 77 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大屋クリニック、関ヶ原病院、みわ歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームほたるは、歴史の街関ヶ原町の古い街並みの中でひととき目を引く洋風2階建ての民家である。南向きの入口を入ると、まず玄関ホールとひと続きの開放的な和室が目に入り、その奥にある仏間や居間、食堂など、共用部分のすべてには十分な広さがあり、木の温もりが感じられ、何かしらほっとする温かい雰囲気を感じ出している。ホームでは、「押しつけでない自然体のケア」「利用者の笑顔を大切にできるケア」をモットーとしていて、職員の暖かな言葉かけや対応の様子、利用者の穏やか表情から、目標が着実に実践されていることを伺い知ることができる。関ヶ原でただ一つのこのホームが、地域の高齢者の生活を豊かなものとする牽引役として発展していくことを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目については取り組み可能などから始めている。ケアの申し送りは記録され、個別記録も検討して取り組んでいるがさらなる改善のため検討中となっている。また、職員の教育については外部研修の参加も含めて検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は外部評価の意義を十分理解しているが、職員に理解を求めるための働きかけは十分とは言えない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の意義は理解されているが諸事情により、平成20年の11月に開催されたもののそれ以降の開催はされていない。関ヶ原町に唯一のホームであり、町の担当職員とは必要に応じて様々な相談を行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会は月に1回程度、中には1～2週間毎に訪問される家族もいて、利用者の暮らし振りや健康状態などを伝えている。家族と会うごとに意見を聴いて、家族の意見を運営に活かす体制はできている。外部の第三者委員をもう一名追加する予定である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入っていて町内の会合のみの参加に終わっている。地域の情報が十分わからず、ホームの利用者の地域の行事等には一部の利用者の参加となっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしい暮らし、はじまります」と理念を掲げているが、ホームの独自の理念としては明確な表現となっていない。	<input type="radio"/>	理念はホームのケアに対する考え方を示すもので、地域の方や職員にも明確にしておくことが望まれる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者のケアサービスに対する思いを職員は受け止めているが理念として明確に表現されていないため共有できていない。	<input type="radio"/>	職員はホームの理念のもとで自分の行っているケアの方向性が確認できるので理念の見直しと共有を図るよう期待する。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っているが町内の会合のみの参加に終わっている。地域の行事等の情報が十分得られずホームの利用者が地域の行事には参加できていない。	<input type="radio"/>	利用者も地域の一員となるよう自治会との関わりをもう少しもって地域の行事等に参加されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義を十分理解している。しかし、職員に理解を求めるための働きかけは十分とは言えない。	<input type="radio"/>	評価はサービスの向上に有効なもので職員とともに取り組んで行かれる事を期待する。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意義は理解されているが諸事情により、平成20年の11月に開催されたもののそれ以降の開催はされていない。	<input type="radio"/>	運営推進会議はホームに対する理解と協力を得られるための場となりうるため早急の開催に向け働きかけを行うことを期待する。

グループホーム ほたる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>関ヶ原町に唯一のホームであり、町の担当職員とは必要に応じて様々な相談を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会は月に1回程度、中には1～2週間毎に訪問される家族もいて、利用者の暮らし振りや健康状態・金銭管理帳などの報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族と会うごとにその都度意見を聴いていて、家族の意見を運営に活かす体制はできている。外部の第三者委員をもう一名追加する予定でいる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>平成19年に3名の職員の異動があったが、以降の職員の異動はない。管理者は異動による利用者へのダメージについて理解しており、職員の異動には慎重である。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の会議を利用して職員の段階に応じた学習会を実施している。外部の研修については特に勧めていないが今後検討して行く予定となっている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流は現時点では特にないが、地域にある特別養護老人ホームや医療機関との交流はあり、夏祭りなどの参加をしている。</p>		

グループホーム ほたる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族にホームに来てもらい、他の利用者や職員と馴染めるようにしてサービス利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の気持ちを尊重し、得意な分野で力を発揮してもらったり、利用者が職員を気遣い、言葉の出にくい利用者が出来ることを手伝ったり、「貴女も休め」など言葉をかけてもらえ共に支え合う関係にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中の発言や会話から思いを受け止め、何を希望しているかを汲み取りながら買い物など一緒に出かけ、意向に添えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者が家族の面会時に聴いた思いや意見を反映した介護計画をケアマネージャーが作成している。	○	今後身近に係わる中でアセスメントを含め職員の意見を反映させ、介護計画の共有がなされることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のケア会議で話し合い、状況の変化が生じたとき話し合い、本人、家族の同意を得て現状に即した介護計画の見直しがなされている。		

グループホーム ほたる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の了解のもと必要時の通院介助をおこない、利用者の要望により喫茶店や買い物の同行介助、又入居者宅訪問などをおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医は3週に1度の往診があり、本人・家族の希望により必要時には受診の支援がされ、情報の共有がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期においては、主治医・本人・家族との話し合いにより希望される入院又は入所の支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに対し利用者を尊重した言葉かけやプライバシーを確保するケアを職員間で話し合い実践している。又記録等には個人情報の保護のため人目に触れないところで管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは特に決めていない。その日その人が普通に自分の家で生活し、笑顔が見られるよう利用者の希望に添った支援がされている。		

グループホーム ほたる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるよう利用者もできる範囲で、テーブルを拭いたり、おしぼりを準備したり一緒に片づけを手伝っている。職員は利用者と一緒に食事をとり、一部の利用者にはゆったりと気遣いながら介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には二日に一回の入浴をおこなっている。入浴拒否の方に対しては「明日は入りましょうね。」と声かけをするなどの工夫をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に応じ、出来ることを役割として、金魚の餌やり・洗濯たたみなど自発的にしてもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調・気候によりできる限り散歩・買い物など、希望に添った外出支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵がかけられておらず、心理的に圧迫感のない自由な暮らしとなっている。家の外へ出ようとする利用者には、制限するのではなく、職員がさりげなく寄り添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知器が設置され、現在スプリンクラー設置の準備が進められている。避難訓練は行われておらず、防災対策が十分とは言えない。	○	災害時には地域住民の協力が必要であり、消防、警察、行政や、近隣住民の協力を得られるよう働きかけていくことを期待したい。

グループホーム ほたる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量や排泄の記録がされており、一日の大まかな摂取量が把握されている。また、栄養のバランスに配慮された食事が、一人ひとりの身体状況に合わせて提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールや廊下、コタツがおかれた和室、居間、台所には十分な採光と広さが確保されている。常に人の気配、食事の準備をする音や匂いなどが感じられ、家庭的で居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのものの持ち込みができるようになっている。和洋2タイプ居室があり、部屋によって広さは異なるが、利用者の好みによって室内の装飾も整えられている。		